

1 あなたの学校や家での学習のことで教えてください。

■分析と今後の指導上の工夫

・「勉強が好きですか」の設問に対して、本校の肯定割合は70%で市の肯定割合を大きく上回っている。さらに全ての児童が分かりやすく楽しいと感じる授業を目指し、「勉強が好き」と感じられるような学習活動の工夫をしていく。

・「次の教科などの学習は、好きですか」の設問に対して、ほとんどの教科で本校の肯定割合は、市の肯定割合を上回っている。授業中は、どの教科でも意欲的に取り組み、進んで課題を解決したり、発言したりする様子が多く見られる。これまで以上に授業の導入や学習活動を工夫し、分かりやすく、児童の意欲をより向上させる授業を目指す。

・「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか」の設問に対して、教科によっては、肯定割合が低いものもある。学習内容が自分たちの生活や将来のために役立つことを実感できるよう支援や声掛けをしていく。

・平日の家庭での学習については、平均すると、30分～1時間の学習時間である。高学年としては少ないことから、学習時間だけでなく内容も充実するよう課題を設定し、家庭と連携しながら指導していく。休日の家庭での学習については、平日よりも学習時間が長く児童が多い。

・「授業の始まりには席についている」の設問に対して、本校の肯定割合が100%であった。年度当初から、授業の始業時刻前には自席につくことを意識するよう指導してきた。現在は、児童同士で声を掛け合い、時刻を守ることができているため、今後も継続していく。

・「グループなどでの話合いに自分で進んで参加している」の設問は、本校の肯定割合が70%であった。日頃から筋道を立てて話す練習をしたり、自分の意見に説得力をもたせるためにはどうすればよいのかを考えさせたりしていく必要がある。

・「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している」や「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」や「テストで間違えた問題をもう一度解き直している」の設問の肯定割合は市の平均を下回った。繰り返し学習することや、授業の復習をすることの大切さを理解させた上で、宿題に出している自主学習とも関連させながら指導していく。また、テストで間違えた問題を解き直させるとともに、テストで間違えた問題を基に復習問題に取り組ませるなど、学習機会の設定と学習習慣の確立を目指していく。

2 あなたの毎日の生活について

■分析と今後の指導上の工夫

・「あいさつ」についての設問では、学校、家庭、地域ともに、あいさつの肯定割合は100%であった。学校ではあいさつ週間や日々の指導の成果もあり、あいさつの大切さを意識できていることが分かる。学校できちんと意識できているあいさつが、さらに家庭や地域において定着するよう声掛けを継続していく。

・「学校のきまりやマナーを守ること、社会生活のルールや公共の場所でのマナーを守ること」についての設問では、肯定割合が100%であった。今後も、きまりやマナーを守って生活することができるよう、支援していく。

・「読書の時間」についての設問からは、読書の時間には個人差が見られることが分かる。学校が休みの日については、ほとんど読まないと回答した児童も多い。学校図書館司書と連携を図り、読書の大切や面白さを伝えていく。

・「ゲーム機やスマートフォン、パソコンなどの利用」についての設問では、平日は1時間くらい、休日は3時間以上と回答した児童の割合が最も多く、市の平均と比べると長時間使用している児童が多いことが分かる。今後も、ゲーム機やスマートフォン、パソコンなどの危険な側面をきちんと理解させた上で、家庭との連携を図り、使用上のルールの話合いやフィルタリング等の設定を説明していく。

・「あなた自身のこと」についての設問では、ほとんどの設問において肯定割合が100%である。児童が責任をもって仕事に取り組むことや働くことの大切さ、協力することの大切さを自覚していることが分かる。来年度に向けて、この気持ちをさらに高めていけるよう、支援していく。

・「家の人や先生」についての設問では、ほとんどの設問で、市の肯定割合を上回っており、周囲の大人との関係が良好であることが分かる。今後も家庭と協力し、児童の支援を行っていくことと併せて、家の人と一緒に過ごす中で学校生活や世の中のこと、自分の夢についても話す機会がもてるよう、家庭への協力をお願いしていく。

・「家での過ごし方」についての設問ではすべての質問の肯定割合が市の肯定割合を上回っている。今後も規則正しい生活を続けることは日中の活力や意欲の向上につながることを児童に周知し、家庭にも協力をお願いしていく。

3 スマートフォンやけいたい電話について

■分析と今後の指導上の工夫

・約60%の児童がキッズケータイやスマートフォンを持っている。全員がフィルタリングを設定した上で使用しているようだが、家庭で明確な使用上のルールを設定していない児童もいる。今後も「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」の各家庭への周知徹底を図っていく。また、児童にもこの宣言についてしっかりと指導し、情報モラルについても指導していく。

4 あなたの体力や健康、食事、安全について

(1)

■ 分析と今後の指導上の工夫

・「運動をすることは大切だと思う」の設問では、肯定割合は100%であり、児童は運動の大切さを理解していると考えられる。しかし、「健康や体力に自信があると思う」の設問では、個人差が見られることから、学校で児童への声掛けをしたり、家庭への呼びかけをしたりしながら、運動の習慣化を促していく。

・「食事のマナーを守って食べることは大切だと思う」や「3食きちんと食べることは大切だと思う」、「栄養バランスを考えて食べることは大切だと思う」の設問では、肯定割合が100%である。食事のマナーや栄養バランスなど、児童の食に関する関心が高いことが分かる。

・「安全」についての設問では、全ての設問で肯定割合が100%であった。今後も安全に気を付けて行動することができるよう、指導を継続するとともに、特に、不審者から自分の安全を守る行動については、避難訓練等の機会を活用し、重点的に指導していく。